

特定非営利活動法人サロン 2002

2015 年度 活動報告書



はじめに

NPO 法人として 2 年目のシーズンを無事終えることができました。2016（平成 28）年度総会を終え、新たな理事を加えて新年度に臨んでいるところです。

長年にわたり任意団体として活動を続けてきた「サロン 2002」は、理事長の“個人商店”と言える運営体制でした。昨年度の報告書では、「“中心も周縁もない” ネットワーク型クラブの社会実験は、NPO 法人が運営するネットワークと、“志” 実現のための事業への関わりという形で、次の段階に踏み出しました」と記す一方、「法人化にともなう事務手続きが増えたにもかかわらず、依然として個人商店の域を出ない組織の脆弱さは課題です」と書かざるを得ない状況でした。

事務局スタッフに若手メンバーを加え、専門家からアドバイスを随時いただく形で運営してきたのが 2015 年度です。幸い「スポネットサロン 2002」（NPO サロンが運営するネットワーク）のメンバーには会計業務や法務の専門家もおり、各分野のプロがそれぞれの経験や知識を自分たちの組織に捧げる文化があります。NPO の運営を通して若手メンバーが育ち、適正に運営できたことは、今後につながるよい兆しであったと言えるでしょう。

2016 年度の理事会は、会計士、弁護士、地域社会で多様な活動を展開されている実践者を加えて構成されています。理事の 8 名だけでなく、約 30 名の会員（社員）は常に情報を共有し、組織の当事者として力を注ぎます。そして、スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”という共通の“志”をもつ「スポネットサロン 2002」のつながりをこれまで同様大切にし、“志”の輪をもっともっと広げていきたいと考えます。

任意団体の頃から続けている月例会は、2016 年 8 月で通算 240 回になります。サッカーが中心だったテーマも、2015 年度はラグビーが 2 回、柔道が 1 回と多様化しつつあります。公開シンポジウムは、NPO 法人サロン 2002 の“志”である「スポーツで“ゆたかなくらし”を！」で開くことができました。今年度は、毎月の月例会と HP での情報発信とともに、戦前の日本サッカー・スポーツ史に焦点を当てたシンポジウムを企画しています。こうした知的財産の発掘と共有もまた、NPO 法人サロン 2002 が積極的に取り組んでいきたい事業です。

U-18 年代のフットサルは、立ち上げ当初からサロン 2002 の会員・メンバーが、それぞれの地域で立ち上げ、個々につながり、底辺からのムーブメントにつながったものと理解しています。その経緯から、今後も積極的にかかわりたい事業です。U-18 サッカーリーグの先駆けである「DUO リーグ」の事務局業務を受託し、単なる競技会としてだけでなく、ゆたかなスポーツライフを享受できる場として支援してまいります。このほか、スポーツとアートの融合を志向する「スキンプロジェクト」や、オリンピック・パラリンピック関連事業にも積極的にかかわる所存です。私たちにできることはまだまだあります。

本報告は、私たちを知っていただくためにまとめたものです。ご一読ください。

2016（平成 28）年 6 月
特定非営利活動法人サロン 2002
理事長 中塚義実

目 次

はじめに.....	1
	NPO法人サロン2002理事長 中塚義実
目 次.....	2
I. 月例会活動報告.....	3
II. 公開シンポジウム.....	11
III. Gavic Cup ユースフットサル選抜トーナメント 2016 報告.....	12
IV. スキンプロジェクト報告.....	14
V. ノンボーダーフットボール報告.....	15
VI. Sport for Tomorrow 事業への参加.....	16
VII. 事務局報告	
(DUO リーグ事務局の件、会員・メンバー数、会費納入状況など)	16
VIII. この一年を振り返って.....	18
	NPO 法人サロン 2002 副理事長 笹原 勉

I. 月例会活動報告

《2015年4月月例会》

【テーマ】NPO 法人化初年度の サロン 2002 共催事業を振り返る

ークーベルタン - 嘉納ユースフォーラム 2015 を中心に

【日 時】2015年4月28日(火) 19:15~21:00 (その後「景宜軒」にて懇親会)

【会 場】筑波大学附属高等学校 3F 会議室(東京都文京区大塚 1-9-1)

【演 者】中塚義実(筑波大学附属高等学校/NPO 法人サロン 2002 理事長)

【参加者(会員・メンバー)4名】安藤裕一(筑波大学ハンドボール部 OB)、春日大樹(筑波大学大学院)、小池靖(サッカースポーツ少年団)、中塚義実(筑波大附高教諭)

【参加者(未会員)9名】田原淳子(国士舘大学)、皆川宥子(日本女子大)、内田裕之(自由学園教諭)、古里光(自由学園男子部2年)、小池胡楠(小池靖子息)、長野基(Peace Village 代表)、蛭名貴(Peace Village)、松岡耕自、国島栄市(ビバ!サッカー研究会)

【報告書作成者】皆川宥子

【概 要】

理事長である中塚氏によるサロン 2002 の歴史を振り返り未来を語る月例会。本会は月例会が始まった1997年から起算して通算 224 回目(シンポジウムはカウントしていない)となる。「サッカー・スポーツを通しての 21 世紀のゆたかな暮らしづくり」という志に賛同し” give and take” の姿勢を大切にす緩やかなネットワークであったサロン 2002 が、長い時間の議論を経て 2014 年に任意団体から NPO 法人サロン 2002 となった。NPO 法人となることで、従来からの月例会に加え、他団体と事業の共催が行われるようになった。サロン 2002 の会員でもあるスポーツライターの賀川浩さんの FIFA 会長賞受賞記念講演会(神戸)は、共催事業の一つ。神戸賀川サッカー文庫がある神戸市立中央図書館が主催、サロン 2002 が共催となり神戸市立中央図書館で実施された。(注、東京の講演会内容は 2015 年 3 月月例会報告を参照)

2 つ目は、ユースフットサル選抜トーナメント 2015 は、日本フットサル連盟が主催し、サロン 2002 が共催した。3 つ目が筑波大学で開催されたクーベルタン - 嘉納ユースフォーラム 2015 (主催:筑波大学オリンピック教育プラットフォーム= CORE)。それぞれの事業の様子が報告された。特にクーベルタン - 嘉納ユースフォーラム 2015 については、参加した高校生や CORE のメンバーらの生の感想を交えながら、開催の経緯、オリンピック教育の意味ならびに将来の展望について報告ならびにディスカッションが行われた。

《2015年5月月例会》

【テーマ】旧ユーゴスラビアが日本に残すサッカーの遺産

ーボスニア・ヘルツェゴビナから見つめて

【日 時】2015年5月30日(土) 16:00~18:00 (その後、阿佐ヶ谷駅周辺にて懇親会)

【会 場】杉並区 産業商工会館(杉並区阿佐谷南 3-2-19)

【演 者】森田太郎(サラエボ・フットボールプロジェクト代表/ZONE BiH 日本担当)

【コーディネーター】小池正通

【参加者（会員・メンバー）12名】梅本嗣、奥崎覚（Qoly）、春日大樹（筑波大学大学院）、金子正彦（会社員）、岸卓巨（スポーツ・フォー・トゥモロー事務局）、小池正通、小池靖（サッカースポーツ少年団）、白井久明（弁護士）、谷口昭彦（静岡産業大学）、茅野英一（帝京大学）、徳田仁（(株)セリエ）、中塚義実（筑波大学附属高校）

【参加者（未会員）9名】阿部博一（日本サッカー史研究会）、加藤燦（学習院大学）、北原由（サッカー史研究会）、国島栄市（ビバ！サッカー研究会）、郡司穰（JICA）、志村岳（セリエ）、露口能彦、松岡耕自、森田太郎

【懇親会から参加】安藤裕一

【報告書作成者】森田太郎

【概要】

サッカーによる平和をめざし、地雷原があるボスニア・ヘルツェゴビナで奔走した森田氏による講演。「子ども時代からプロ選手になってからも家族ぐるみで付き合っていたクロアチア人の友人たちと口を利くことすらなくなってしまい、深い溝が入ってしまった」NBAで活躍するで、セルビア人のブラディ・ディヴァツ選手（ユーゴスラビア代表）の言葉に、「なぜ、共に生活している仲間たちが、紛争が起きたことで口も利かなくなるような関係になってしまうのか？」これが森田氏がユーゴスラビアに関心をもつ最初のきっかけであった。（1994-95年はボスニア・ヘルツェゴビナ紛争がメディアに盛んに報道されていた。）

スポーツで何かができないかという思い、そしてユーゴスラビア、ボスニア・ヘルツェゴビナについて学ぶために大学に進学した後、1999年に森田氏が目指したのはボスニア連邦の南部に位置するヘルツェゴビナ地域（イスラム教徒とクロアチア人の対立の最前線）だった。この地でスポーツによる人々の融和を目指した森田氏は、対立する二つの地域の子どもの集わせ15歳以下のサッカー大会を始めた。（2006年にはチームの訪日を実現、またこの企画はボスニア・ヘルツェゴビナのサッカー協会が統一した2008年まで続いた）現地でサッカー指導者のB級ライセンスも取得した森田氏（ボスニア・ヘルツェゴビナは当時バルカン地域で唯一UEFA公認ライセンスが取得できる地域であった）は、ユーゴスラビア、ボスニア・ヘルツェゴビナについて、優秀なサッカー選手や指導者が育つ理由、日本サッカーへの影響など独自の見解を展開。「コソヴォ紛争の期間に現役であったストイコビッチは名古屋で試合を終えて寝ないで、ヨーロッパに行きユーゴスラビア代表としてプレーし、すぐに日本に戻ってプレーするという生活を送っていた。」

このようにユーゴスラビア出身の選手は、日本に対してスポーツを超えたサッカーの力や、プロフェッショナリズムを伝えてきた。またオシム監督に代表されるように、ユーゴスラビアの監督たちが残してきたものは、教育者としての教えであり、素直に聞き入れる日本だったことが日本のサッカーの成長につながっていると思う。このほか日本や世界のサッカーシーンに登場するユーゴスラビア出身の選手や監督について解説がなされたが、民族紛争を背景としているだけに、それぞれが背負っている運命の重みを感じられた。歴史的な背景、危険を伴ったこと（だが本人は事態を詳しく知らなかったことが幸いしたことも、） 同国がサッカー以外の球技も強い理由など、面白くまた重みのある質疑が行われた。

《2015年6月 月例会》

【テーマ】ミャンマーとサッカーNPO

ーいち学生が観た発展途上国のサッカー

【日 時】2014年6月14日(土)19:10~21:50 (その後「景宜軒」にて懇親会)

【会 場】筑波大学附属高校 3F 高校会議室 (東京都文京区大塚1-9-1)

【演 者】春日大樹 (筑波大学大学院人文社会科学研究科1年)

【参加者 (会員・メンバー) 7名】安藤裕一 (筑波大学ハンドボール部 OB)、牛木素吉郎 (ビバ! サッカー研究会)、岸卓巨、笹原勉、谷口昭彦、田中俊也、中塚義実 (筑波大附属高校)

【参加者 (未会員) 1名】山田涼馬 (筑波大学4年)

【報告書作成者】春日大樹

【概 要】

親子2代でサロン2002に関わる大学院生春日氏が、サッカーボールを持って1週間ミャンマーを訪問した体験報告。街ではいたるところでチンロン (セパタクローのボールと似たボールでのサッカー、ミャンマーの国技)、「人々はコンクリートの上で、裸足のままボールを蹴っています」。経営難に直面している日本人スタッフから、また現地リーグに参加する日本人プレーヤーからは設備の違いに対応できない元Jリーガーが多いことなどの話を通してミャンマーのサッカークラブの問題点を聞き出した。施錠されていないスタジアム内で市民が生活しているという「のどか?」な面も確認。村で行われていた若手育成のサッカーキャンプを見学、砂利のグラウンド、ズック (スパイクはない)、ゴールネットもないという貧しい環境であった。一方、別の村では、柔道や合気道が行われていて、日本の文化の影響を実感。『発展の真ただ中にあるこの国で、サッカーがどういう役割を果たしていくのか、非常に興味深いことだと思います。』と結ぶ、短いながらも濃密な滞在内容が報告された。

(《2015年7月 月例会》はシンポジウム報告を参照)

《2015年8月 月例会》

【テーマ】サッカーの競技力とデータの関係について

【日 時】2015年8月14日(月祝) 19:00~23:20 (その後、同会場にて懇親会)

【会 場】フットボールサロン4-4-2(墨田区江東橋4-16-5 SKビルB1)

【演 者】サロン2002メンバー (事情があつて氏名は公表できません)

【参加者(10名)】梅本嗣 (会社員・博報堂)、奥山純一 (webエンジニア)、金子正彦 (会社員)、小池靖 (さいたま/サッカースポーツ少年団)、辰巳義和 (FC TON/石川県金沢市)、茅野英一 (帝京大学)、中塚義実 (筑波大学附属高校)、齋藤宣昭(会場関係者)、今廣佳郎(会場関係者)、演者 (匿名)

【概 要】

サッカーのデータ解析にはカメラは有用であるが、果たして競技力向上に役立っているのか、サッカーにおける競技力や強さと言うものの意味はなんであるのかということに立ち返り、参加者の間でディスカッションがなされた。デットマール クラマー氏の発言を引用し「競技力・強さは【勝つこと】と【美しくプレーすること】に集約される。スキル、フィジカル、チーム力、チーム運営力などは、勝つことと美しくプレーするための手段である」と。

では、競技力は結果なのか手段なのかといった議論が繰り広げられた。続いてゲームの中での「形」「プロセス」について、演者は「ゴールを奪う」から「ゴールがはいる形」へのプロセスに近い(スムーズである)ことが大切と説いた。サッカー談義はそのまま暑気払いに突入。

《2015年9月 月例会》

【テーマ】スロバキアへ行ってきました

ー第10回国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム報告-

【日時】2015年9月30日（水）19:00～21:10（その後「景宜軒」にて懇親会）

【会場】筑波大学附属高等学校 3F 会議室

【演者】中塚義実（筑波大学附属高校／NPO 法人サロン 2002 理事長）

【参加者（会員・メンバー）7名】安藤裕一（筑波大学ハンドボール部 OB）、小池靖（サッカースポーツ少年団）、嶋崎雅規（国際武道大学）、白井久明、田中俊也（三日市整形外科）、中塚義実（筑波大学附属高校）、吉原尊男

【参加者（未会員）12名】阿部靖子（筑波大附高保護者）、井内晴巳（中京大学附属中京高保護者）、内田裕之（自由学園男子部）、川島健司（読売新聞社）、高橋正紀（岐阜経済大学）、高橋眞由美（筑波大附高保護者）、田原淳子（国士舘大学）、遠山諒（国際基督教大学3年）、内藤智（中京大学附属中京高校）、古里志津代（自由学園保護者）、皆川宥子（日本女子大2年）、和田恵子（日本オリンピックアカデミー）、

【報告書作成者】中塚義実

【概要】

NPO 法人サロン 2002 の生みの親であり理事長でもある中塚氏による報告。国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムに参加した高校生の父兄も出席したため、まずサロン 2002 のあゆみについて自己紹介を交えながら紹介。続いて国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムへの日本参加の歴史、ならびに第10回国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラムへの参加者を選考するため、クーベルタン-嘉納ユースフォーラム 2015 を解説。2015年3月に筑波大学にて全国の高等学校6校より男子15名、女子15名が参加した。

選考された7名の高校生は、学校生活の合間に、ボランティア活動、英語の勉強、文化交流のための練習などの準備を重ね、8月27日に日本を出発、ウィーンを経由してチェコに到着。世界19カ国からきた合計110名の高校生の中で、開会式のイベントから、障害者スポーツを含む様々なスポーツ体験、英語での討論、スポーツテスト、筆記テスト、アートパフォーマンスなどを体験した。参加した高校生は、国際交流を深めただけでなく、多くのことを学び成長することができたに違いない。演者自身も、クーベルタンや嘉納治五郎が目指した“真の”教育とは、心と体と知性のバランスのとれた人間の育成であり、世界平和につながる理念であることを改めて認識する機会となった。

《2015年10月 月例会》

【テーマ】大学の授業を通じた体育・スポーツ分野における国際協力

ーカンボジア王国におけるスポーツ指導・運動会・体育の実践

【日時】2015年10月23日（金）19:00～21:00（その後「景宜軒」にて懇親会）

【会場】筑波大学附属高校 3F 会議室（東京都文京区大塚 1-9-1）-

【演者】山平芳美（国際武道大学特任助教）

【コーディネーター】岸卓巨（スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局）、嶋崎雅規（国際武道大学）

【参加者（会員）6名】

安藤裕一（筑波大学ハンドボール部 OB）、岸卓巨、小池靖（サッカースポーツ少年団）、小林俊文（群馬県立渋川青翠高校）、嶋崎雅規（国際武道大学）、中塚義実（筑波大学附属高校）

【参加者（未会員）6名】安藤江美、今野涼太（国際武道大学）、篠原翼（明治大学）、遠山諒（国際基督教大学3年）、松井完太郎（国際武道大学）、山平芳美

【概要】

最初にスポーツ・フォー・トゥモロー（以下 SFT）の概要を、今回月例会のコーディネーターである岸氏が説明。続いて Sports Project in Cambodia という名称で 2006 年から活動が始まった国際武道大学のカンボジアにおける支援活動について、同大学の教員である山平氏が報告した。

カンボジアで運動会やスポーツ支援を展開するこの企画は、教員養成やスポーツ文化が発達途上のカンボジアにとっても、異国で専門教育の実践という貴重な体験をする日本の大学生にとっても、そしてこの企画により活性化が期待できる国際武道大学のとても互いに有益となる仕組みになっている。毎年平均 10 名程度、現在までのべ 200 名程度の学生が参加している。出発前の教育用資料の作成を含めた様々な準備から、現地での支援活動の内容を動画を交えて発表、カンボジアの教員のとりくむ姿勢が積極的になってきたことで経年的な成果が見られているとのこと。

このプロジェクトに同行している同大学の松井氏より、学生・カンボジア・大学の三者が対等な互恵関係を保つこと、そしてそれを学生に自覚させることが長続きさせる大切な要素と補足。

ディスカッションでは、カンボジアの郊外でサッカー普及活動をしている小林氏より、自身の体験を写真を交えて話され、ポルポト政権時代の不幸な歴史の傷跡が各地で見られることなど参加者に驚きを与えた。途上国の問題と日本の関わり方について学ぶことの多い月例会であった。

《2015 年 11 月 月例会》

【テーマ】2019 年ラグビーワールドカップ成功のために①

ー日本代表の活躍を踏まえて、いま私たちにできること

【日 時】2015 年 11 月 27 日（金）19：10～21：10（その後、同会場にて懇親会）

【会場】フットボールサロン 4-4-2

【演者】嶋崎雅規（国際武道大学）

【参加者（会員・メンバー）7名】安藤裕一（筑波大学ハンドボール部 OB）、牛木素吉郎（ビバ！サッカー研究会）、浦和俊介（会社員）、金子正彦（会社員）、小池靖（サッカースポーツ少年団）、嶋崎雅規（国際武道大学）、中塚義実（筑波大学附属高校）

【参加者（未会員）7名】安藤江美、遠山諒（国際基督教大学3年）、国島栄市（ビバ！サッカー研究会）、岡宮喜雄（麻布多摩川 R.F.C.）、本間雅裕（麻布多摩川 R.F.C.）、山下精一（麻布多摩川 R.F.C.）、北澤仁（麻布 OB／スクラム釜石）

【フットボールサロン 4-4-2 スタッフとして参加】今廣佳郎、齊藤宣彰

【報告書作成者】浦和俊介

【概要】

国際武道大学でラグビー指導に携わる嶋崎氏による、2015 年ラグビーワールドカップ（以下 W 杯）の解説、ならびに 2019 年に日本で開催される W 杯に向けての課題の発表。まずエディージャパンの南アフリカ戦で勝利のポイント、続いて他の試合の分析。エディーがいかにかに上手に選手を鼓舞しながらチームを熟成させてきたかは、選手らのコメントからも垣間見られる。結局日本は 3 勝 1 敗で、ボ

ーナスポイントの関係でグループリーグ敗退となった。世界を知り、日本人の技術、体力、考え方を熟知していたエディーであったからこそこのようなチーム作りができた。五郎丸ポーズで有名になったメンタルコーチの荒木氏の力も忘れてはいけない。一戦ごとに良くなったニュージーランドの強さは決勝での対オーストラリア戦でも衰えることなく、攻守ともに見所が満載であった。

今後日本のラグビーは、トップリーグをいかに盛り上げるか、スーパーラグビーへの関わり方、ジュニアや子供の普及育成、の三つが主たる課題となるであろう。2015年W杯の感想やコメントから、日本のラグビーの将来についてなど幅広いディスカッションが繰り広げられた。

《2015年12月 月例会》

【テーマ】ワールドカップ2019の成功のために②

ー日本のラグビー界はこれからどうあるべきか

【日時】2015年12月16日(水)19:00~21:20(その後「景宜軒」にて懇親会)

【会場】筑波大学附属高等学校3F会議室

【演者】山本巧(防衛大学校/日本ラグビーフットボール協会理事)

【コーディネーター】嶋崎雅規(国際武道大学)

【参加者(会員・メンバー)9名】安藤裕一(GMSS ヒューマンラボ)、牛木素吉郎(ビバ!サッカー研究会)、川戸湧也(筑波大学大学院)、小池靖((さいたま市)サッカースポーツ少年団)、嶋崎雅規(国際武道大学)、徳田仁((株)セリエ)、名方幸彦(文京教育トラスト)、中塚義実(筑波大学附属高校)、吉原尊男

【参加者(未会員)4名】澤田勝徳(日本テレビサービス)、国島栄市(ビバ!サッカー研究会)、北澤仁(NPO スクラム釜石)、山本巧(防衛大学校/日本ラグビーフットボール協会理事)

【報告書作成者】嶋崎雅規

【概要】

日本ラグビーフットボール協会理事である山本氏による日本ラグビーの現状と展望ならびに課題についての報告。現在日本のラグビーは登録人口が約10万人で最近5年では横ばいである。ラグビースクールやジャンボリーという大会などを通して競技人口を増やすことが一つの課題である。2015年ワールドカップで3勝をあげた日本の競技力は向上しているといえるが、今後さらに競技力を向上させるためには、選手の育成と指導者の育成の両者が大切な鍵となる。普及のためには様々な努力がなされている。トップリーグの試合開始前にヨガ教室を芝の上で実施することで、参加者に観戦してもらったのも一つの試み。ラグビーの醍醐味はスピード感にあるという人もいるのでそれをいかに常アピールするかも課題である。サンウルブズが結成されスーパーラグビーに参戦することは強化ならびに普及という点でアドバンテージとなるはずなので、日本のラグビーの発展にうまく生かしていくべきである。2019年に日本で開催されるワールドカップを成功させることも大切だが、その先の日本のラグビーの方向性について見失わないようにしたい。

このほか、メディアの露出や利用の方法、指導/育成について、サッカーのクラブとラグビーのクラブの違いなど含め様々なディスカッションがなされた。

《2015年1月月例会》

【テーマ】柔道というスポーツが日本で愛されるために

—柔道のこれまでの歩みを振り返り、今後の課題を考える

【日 時】2016年1月26日(火) 19:10~21:00 (その後「景宜軒」にて懇親会)

【会 場】筑波大学附属高等学校 3F 会議室

【演 者】川戸湧也 (筑波大学大学院修士課程2年/柔道部)

【参加者(会員・メンバー)9名】安藤裕一 (GMSS ヒューマンラボ)、牛木素吉郎 (ビバ!サッカー研究会)、春日大樹 (筑波大学大学院)、金子正彦 (会社員)、川戸湧也 (筑波大学大学院)、岸卓巨 (スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局)、小池靖 (サッカースポーツ少年団)、嶋崎雅規 (国際武道大学)、中塚義実 (筑波大学附属高校)、

【報告書作成者】川戸湧也

【概 要】

筑波大学大学院生/柔道部であり、また日本柔道連盟科学研究部に所属する川戸氏によるサロン2002の月例会史上初めての「柔道」の話題。「柔術」から「柔道」への変化について、動画や実演を交えての説明、そして嘉納治五郎が行った柔道の普及のための努力、教育への情熱が語られた。

嘉納治五郎の追い求めた柔道と教育の理想の姿は、現代のスポーツと教育の理想と相通じるものであることを、参加者に改めて認識させる内容であった。

《2016年2月月例会》

【テーマ】「このくにのサッカー」を語る

【日 時】2016年2月1日(月) 19:00~20:30 (その後、同会場にて懇親会)

【会 場】フットボールサロン4-4-2 (東京都墨田区江東橋4-16-5)

【演 者】賀川浩 (スポーツライター)

【参加者(会員・メンバー)17名】阿部博一 (日本サッカー史研究会)、安藤裕一 (GMSS ヒューマンラボ)、牛木素吉郎 (ビバ!サッカー研究会)、梅本嗣 (会社員)、奥崎覚 (Qoly)、奥山純一 (フットリンク Web エンジニア)、春日大樹 (筑波大学大学院)、金子正彦 (会社員)、小池靖 (サッカースポーツ少年団)、嶋崎雅規 (国際武道大学)、竹中茂雄 (FC品川)、田村修一 (フリージャーナリスト)、徳田仁 ((株)セリエ)、中塚義実 (筑波大学附属高校)、本多克己 (神戸アスリートータウンクラブ)、宮原陽介 (アップルシード・エンジェンシー)、吉原尊男

【参加者(非会員)8人】石井伸介 (苦楽堂)、奥山祐次 (会社員)、北原由、川島德基 ((株)RIGHT STUFF)、熊谷健志 (会社員)、小宮山友久、済木崇 (会社員)、皆川宥子

【報告書作成者】春日大樹

【概 要】

91歳を迎えた世界に誇るスポーツライター賀川浩による報告。日本のサッカーの今日までの発展と未来を語る本となる「このくにのサッカー」企画の動機で話ははじまる。日本のサッカーのために尽力してきた人たちの、サッカー界の現状と将来に対する思いをまとめるには今しかないと考えた賀川氏。直接会って話を聞き、対談集という形にすることが一番と考え、取材形式の企画を計画し、現在進行中である。ところで図書館というのは素晴らしい空間でその一角にスポーツやサッカーのコーナーがあることは日本のために良いことであり、そのためにも本という形で記録が残ることはとても意義深い。

続いて、前日1月30日の日韓戦（オリンピック予選）で日本が勝利したことに対するコメントや、日本のU23の選手の特徴（この年代の選手のレベルが数年前と比較しアップしていること）などが語られた。ディスカッションでは様々な角度から質問が飛び出し、ユーモアを交えた賀川氏のコメントの一つ一つに参加者は満足した。

《2016年3月月例会》

【テーマ】FIFA スキャンダルとFIFAの行方

【日時】2016年3月30日（水）19：00～21：00（その後「景宜軒」にて懇親会）

【会場】筑波大学附属高校3F会議室

【演者】田村修一（フリーランスジャーナリスト）

【参加者（会員・メンバー）19名】安藤裕一（GMSS ヒューマンラボ）、牛木素吉郎（ビバ！サッカー研究会）、梅本嗣（会社員(博報堂)）、奥崎覚（フットボールWEBマガジン『Qoly』）、奥山純一（フットリンクープログラマー）、春日大樹（筑波大学大学院）、金子正彦（会社員）、川戸湧也（筑波大学大学院）、小池靖（サッカースポーツ少年団）、笹原勉（会社員）、篠原翼（明治大学法学研究科）、白井久明、関谷綾子（関谷法律事務所）、田中理恵（会社員）、田村修一（フリーランスジャーナリスト）、茅野英一（帝京大学）、徳田仁（(株)セリエ）、中塚義実（筑波大学附属高校）、吉原尊男

【参加者（未会員）11名】大谷隆之（会社員）、尾崎和仁（ビバ！サッカー研究会）、鬼島一彦（MTCJapan ロシア）、国島栄市（ビバ！サッカー研究会）、小石巖（通訳案内士(英語)／関西大学サッカー部OB会関東支部長）、塩川大輔（トレーナー(TETTER TOTTER)）、遠山諒（国際基督教大学）、保科たまき（会社員）、南田貴大（会社員）、森田太郎（Sarajevo Football Project）、守屋佐栄（パート）、

【「景宜軒」からの参加者】1名

【報告書作成者】篠原翼

【概要】

ジャーナリストである田村修一氏によるFIFAの問題の解説。2016年2月26日にFIFAの第9代会長選挙でUEFA事務局長であったジャンニ・インファンティーノが当選した。インファンティーノはFIFAを改革し、失われた信頼を取り戻すための適任者といえるのだろうか？ 想像を絶する逮捕者の数と、巨額の不正資金の流れにばかり目が行きがちだが、そもそもFIFAゲートと称されるスキャンダルは、何が問題だったのか？ ふたつの異なる問題がひとつに絡まったときに、スキャンダルは顕在化した。

全体像がわかりにくい状況だが、田村氏が収集した膨大な資料や、5人の会長候補者のひとりであったジェローム・シャンパーニュ元FIFA副事務局長への電話インタビューをはじめとするさまざまな取材で得たものをもとに、現在のFIFAの状況についてと今後の展望が語られた。またフロアからの数々の質問に対し興味深い解説や議論が展開された。

注) 参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書はあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません（ご本人の了解が得られた方のみ公開しています）

II. 公開シンポジウム報告

2015年7月4日に「スポーツで『ゆたかなくらし』を！」と題して公開シンポジウムを開催しました。このテーマは、サロン2002が法人格を取得する前から掲げてきた“志”に由来します。今回は、サロン2002をNPO化してから初めての公開シンポジウムということで、組織の原点を見つめ直す意味でこのテーマを選択しました。国内外で「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」に取り組まれる3名の演者から事例報告をいただき、パネルディスカッションでは参加者からも活発な意見をいただきました。50名を越える方にお集まりいただき、懇親会では世代を超えた交流が活発に行われたことも、本シンポジウムの成果だと考えております。本シンポジウムの内容については、「NPO 法人サロン2002 公開シンポジウム報告書（2015年度版）」として発行しております。

NPO法人サロン2002 公開シンポジウム2015 スポーツで『ゆたかなくらし』を！

主催：特定非営利活動法人サロン2002
後援：Penya Blaugrana Tokyo、NPO法人GEWEL、認定NPO法人クラブネッツ
日時：2015（平成27）年7月4日（土） 15：30～18：00（受付15：00～）
会場：筑波大学東京キャンパス1F

プログラム：

15:30 開会挨拶：中塚 義実（NPO法人サロン2002 理事長）

15:45 事例発表「スポーツの活用可能性とは？」（各25分）

1) スポーツを通じたダイバシティー社会の実現、CSRとしてのスポーツの捉え方

演者：村松 邦子（Jリーグ理事、株式会社ウェルネス・システム研究所 代表取締役）

2) 開発と平和のためにスポーツが果たす役割

演者：山口 拓（筑波大学助教、NPO法人ハートオブゴールド元理事）

3) スポーツのネットワークを活用したネパール大地震復興支援活動

演者：小林 洋平（NPO法人ネパール野球ラリグラスの会 理事長）

17:00 パネルディスカッション「スポーツでゆたかなくらしを！」

パネリスト：上記1）～3）の3名、（フロアを交えての意見交換）

18:00 閉会

コーディネーター：岸 卓巨（特定非営利活動法人サロン2002 理事）

展示：「スキンプロジェクト」 佐藤 一郎（靴朗堂本店、靴創家）

シンポジウム運営：岸 卓巨、春日 大樹、嶋崎 雅規、中塚 義実

<NPO法人サロン2002 公開シンポジウム報告書（2015年度版）>

報告書寄稿者：

笠野 英弘 「スポーツの活用に潜むリスク」

春日 大樹 「ボーダーレスのゆたかなくらしを目指して～Non-border Football Project 26.07.2015～

小池 靖 「スポーツでゆたかなくらしを～嘉納治五郎から近代スポーツの原点を探る～」

報告書テーブル起こし：山田 涼馬

報告書構成・編集：岸 卓巨、春日 大樹

【文責：岸卓巨】

Ⅲ. Gavic Cup ユースフットサル選抜トーナメント 2016 報告

2012 年に中塚、本多などが中心となって創設した「U-18 フットサルトーナメント」を、本年度から日本フットサル連盟主催、サロン 2002 共催の「ユースフットサル選抜トーナメント 2015」として開催。2014 年 8 月に JFA 主催の「第 1 回全日本ユース(U-18)フットサル大会」が行われたが、今後も春季の大会として継続していく方針。出場チームは地域のフットサル連盟が選出とし、各地域の状況に応じ選抜チーム、単独チームを問わず多様な形態での出場を受け入れることで地域ごとの普及・強化に寄与する。

開催目的：フットサル界の底辺の拡大の一環として、ユース年代におけるフットサル選手の試合機会の創出及びユース年代の選手の技術向上を目指すことを目的として、本大会を開催する。

- 1.名称：ユースフットサル選抜トーナメント 2016
- 2.主催：一般財団法人日本フットサル連盟
- 3.共催：特定非営利活動法人サロン 2002
- 4.主管：公益財団法人東京都サッカー協会、東京都フットサル連盟
- 5.後援：公益財団法人日本サッカー協会、一般社団法人北海道フットサル連盟、東北フットサル連盟、関東フットサル連盟、北信越フットサル連盟、東海フットサル連盟、関西フットサル連盟、中国フットサル連盟、四国フットサル連盟、九州フットサル連盟（予定）
- 6.協賛：日本ウェルネススポーツ大学
- 7.協力：株式会社シックス
- 8.期日：2016 年 3 月 19 日（土）～20 日（日）
- 9.会場：墨田区総合体育館

※結果は別添「GAViC CUP ユースフットサル選抜トーナメント 2016 最終成績」参照

□大会を終えて

全国から集まった 12 チームは大変レベルの高い試合を展開してくれました。高校生らしいアグレッシブなプレーは、F リーグや日本代表が失いかけている大事なもの—「ゴールを目指す」「失敗を恐れない」など—を思い出させてくれるもので、応援・観戦に訪れた人だけでなく、運営スタッフも「おもしろい!」と感じるゲームが続きました。

決勝は、激戦を勝ち抜いてきた地元東京選抜と、サッカーで鍛えた体力に雪国ならではの室内フットサル経験が豊富な新潟選抜です。見ごたえのあるゲームは 1-1 で決着がつかず、PK 戦の末、新潟が優勝しました。東京は 2 年連続準優勝。賀川浩賞（最多得点者）は東京選抜の中村充君でした。（中塚）

【文責；本多克己】

GAViC CUP ユースフットサル選抜トーナメント 2016 最終結果

(2016年3月19日～20日 墨田区総合体育館)

【1次ラウンド】

3月19日(土)・20日(日)

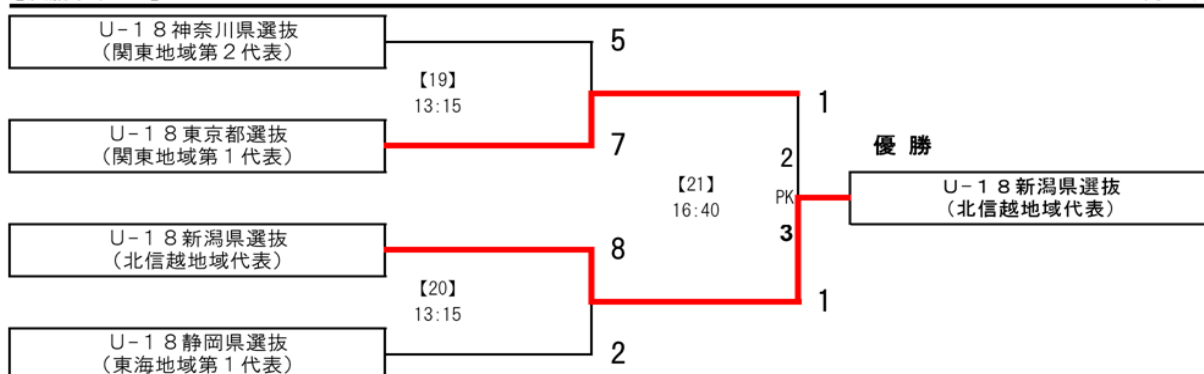
順位	Aグループ	U-18愛知県選抜	U-18大阪府選抜	U-18北海道選抜	U-18東京都選抜	勝点	勝利	引分	敗戦	得点	失点	得失点
4	U-18愛知県選抜 (東海地域第2代表)		4 ○ 3	5 ● 8	4 ● 6	3	1	0	2	13	17	-4
3	U-18大阪府選抜 (関西地域代表)	3 ● 4		2 ○ 0	2 △ 2	4	1	1	1	7	6	1
2	U-18北海道選抜 (北海道地域代表)	8 ○ 5	0 ● 2		5 △ 5	4	1	1	1	13	12	1
1	U-18東京都選抜 (開催地代表)	6 ○ 4	2 △ 2	5 △ 5		5	1	2	0	13	11	2
	【1】 3/19 10:00	Aピッチ		U-18愛知県選抜	4 - 3				U-18大阪府選抜			
	【2】 3/19 10:00	Bピッチ		U-18北海道選抜	5 - 5				U-18東京都選抜			
	【7】 3/19 14:15	Aピッチ		U-18愛知県選抜	4 - 6				U-18東京都選抜			
	【8】 3/19 14:15	Bピッチ		U-18大阪府選抜	2 - 0				U-18北海道選抜			
	【13】 3/20 08:10	Aピッチ		U-18愛知県選抜	5 - 8				U-18北海道選抜			
	【14】 3/20 08:10	Bピッチ		U-18大阪府選抜	2 - 2				U-18東京都選抜			

順位	Bグループ	FOOTBOZE FUTSAL U-18	U-18新潟県選抜	岡山県作陽高校	香川県立高松商業高校	勝点	勝利	引分	敗戦	得点	失点	得失点
3	FOOTBOZE FUTSAL U-18 (関東地域第1代表)		2 ● 5	2 △ 2	2 △ 2	2	0	2	1	6	9	-3
1	U-18新潟県選抜 (北信越地域代表)	5 ○ 2		5 ○ 3	10 ○ 5	9	3	0	0	20	10	10
4	岡山県作陽高校 (中国地域代表)	2 △ 2	3 ● 5		2 ● 7	1	0	1	2	7	14	-7
2	香川県立高松商業高校 (四国地域代表)	2 △ 2	5 ● 10	7 ○ 2		4	1	1	1	14	14	0
	【3】 3/19 11:25	Aピッチ		FOOTBOZE FUTSAL U-18	2 - 5				U-18新潟県選抜			
	【4】 3/19 11:25	Bピッチ		岡山県作陽高校	2 - 7				香川県立高松商業高校			
	【9】 3/19 15:40	Aピッチ		FOOTBOZE FUTSAL U-18	2 - 2				香川県立高松商業高校			
	【10】 3/19 15:40	Bピッチ		U-18新潟県選抜	5 - 3				岡山県作陽高校			
	【15】 3/20 09:35	Aピッチ		FOOTBOZE FUTSAL U-18	2 - 2				岡山県作陽高校			
	【16】 3/20 09:35	Bピッチ		U-18新潟県選抜	10 - 5				香川県立高松商業高校			

順位	Cグループ	U-18宮崎県選抜	U-18神奈川県選抜	U-18静岡県選抜	聖和学園高校	勝点	勝利	引分	敗戦	得点	失点	得失点
3	U-18宮崎県選抜 (九州地域選抜)		3 ● 9	4 ● 7	14 ○ 1	3	1	0	2	21	17	4
1	U-18神奈川県選抜 (関東地域第2代表)	9 ○ 3		8 ○ 5	13 ○ 1	9	3	0	0	30	9	21
2	U-18静岡県選抜 (東海地域第1代表)	7 ○ 4	5 ● 8		13 ○ 1	6	2	0	1	25	13	12
4	聖和学園高校 (東北地域代表)	1 ● 14	1 ● 13	1 ● 13		0	0	0	3	3	40	-37
	【5】 3/19 12:50	Aピッチ		U-18宮崎県選抜	3 - 9				U-18神奈川県選抜			
	【6】 3/19 12:50	Bピッチ		U-18静岡県選抜	13 - 1				聖和学園高校			
	【11】 3/19 17:05	Aピッチ		U-18神奈川県選抜	8 - 5				U-18静岡県選抜			
	【12】 3/19 17:05	Bピッチ		U-18宮崎県選抜	14 - 1				聖和学園高校			
	【17】 3/20 11:00	Aピッチ		U-18宮崎県選抜	4 - 7				U-18静岡県選抜			
	【18】 3/20 11:00	Bピッチ		U-18神奈川県選抜	13 - 1				聖和学園高校			

【決勝ラウンド】

3月20日(日)



準決勝の組み合わせ		
Aグループ2位が出る場合	【19】 Aグループ1位vsBグループ1位	【20】 Cグループ1位vsAグループ2位
Bグループ2位が出る場合	【19】 Bグループ1位vsCグループ1位	【20】 Aグループ1位vsBグループ2位
Cグループ2位が出る場合	【19】 Cグループ1位vsAグループ1位	【20】 Bグループ1位vsCグループ2位

IV. スキンプロジェクト報告

第1回 2015年5月6日(祝) 筑波大学附属高等学校

この日は朝からグラウンドで DUO リーグが 3 試合、体育館では女子高生フットサル大会（筑波大附高女子蹴球部主催。6 校参加）、会議室と体育館ではフットサル 4 級審判員取得講習会（TFA 審判委員会/U-18 フットサルリーグ主管）が開かれていました。そしてその合間に、コート面の脇（体育館とグラウンドの間のスペース）で、「使えなくなったサッカーボールでコインケースをつくる」「使い終わったラインテープの芯からペン立てを作る」という二つのワークショップを開き、あいているときに随時参加するという形式で進めました。幸い好天に恵まれ、青空のもとに開かれたブルーシートの上で展開しました。

DUO リーグの最初の試合は巣鴨 A 対筑波大附。4-0 で完勝した巣鴨の生徒が試合を終えてやってきました（筑波大附の生徒は体育館で女子の応援）。ペン立てに 10 名ほど、コインケースづくりに 3 名ほどに分かれ、楽しそうに取り組んでいます。

そのうちフットサルの女子高生たちも試合の空き時間に参加します。駒込高校、富士見丘中高、筑波大附高の女子高生です。郁文館高校や筑波大附サッカー部の男子生徒も加わり、ワークショップのブルーシート上は大混雑。入れ替わり立ち代わりなので気軽に参加できたのかもしれませんが。ぶらっとやって来た筑波大附の OB・OG も「やっていけや」の一言に反応します。やってみるとこれがおもしろい！ 貞静学園サッカー部員も楽しそうにやっています。品川から竹中茂雄さんもぶらっとやって来ました（1 時間ほどで別のところに出かけましたが）。京都に帰省中の春日大樹さん、久しぶりの休日の岸卓巨さんもやってきました。いろんな人がぶらっとやってくるのがいいですね。

一段落ついてすいてきたところで私もつくってみました。ペン立ては約 20 分、コインケースは 30 分ぐらいでしょうか（実際はもっとやっていたかもしれないが夢中になったので時間を忘れた）。なかなか良いできばえで気に入っています。

最後まで残ってやっていたのは錦城高校女子フットサル部の生徒たち。誕生日の友達にあげるんだと言って、わいわい言いながらつくっています。17 時ごろには涼しくなってきたので店じまい。皆で片付けをして終了。おとなたちは護国寺の華の舞へ繰り出しました。

ペン立てづくりの青木伸彦さん（TFA フットサル委員会運営部）とコインケースづくりの佐藤いちろうさん（靴郎堂本店）のコラボがよかったです。1 日で 50～60 名は参加したでしょうか。とても楽しいイベントで、今後につながるものでした。

第2回 2016年3月19日(土) 墨田区総合体育館にて

3 月 19 日は、サブアリーナでスキンプロジェクトが午前・午後と開かれました。「使えなくなったサッカーボールからコインケースをつくる」（佐藤いちろう氏）、「使い終わったラインテープの芯からペン立てをつくる」（青木伸彦氏）という二つのワークショップを並行して実施。飛び入りで無料体験できる気軽なイベントです（準備は大変ですが）。

午前の部はなかなかお客さんが現れません。最初のお客さんは、大会関係者といちろう君の 4 歳の息子（かんだ君）。みな試合観戦に夢中で付帯イベントどころではありません。

東京選抜とフットボウズ（関東代表）の試合が終わったあたりからスタンドも落ち着きます。会場を出ようとしていた中学生 8 人組に声をかけたところ、半信半疑ながらサブアリーナにやって来ました。やり出すとおもしろいのか、最後はノリノリでやっていました。

13:30～15:00 はフウガドールすみだによる「親子フットサルクリニック」です。クリニック講師には、最年少の日本代表、清水和也選手（フットボウズ OB）もいます。4 歳児あたりから小学校中学年ぐらいまでの子どもと親、17 組 35 名がわきあいあいとフットサルを楽しみました。

クリニックの最後にスキンプロジェクトの紹介をしたところ、大勢が残ってやっていってくださ

た。アルゼンチンのユニフォームを着ている幼稚園児（ぐらいの子ども）が水色のペン立てを作っていたので「かっこエエナア、アルゼンチンみたいやなあ」と言ってあげると、すごくうれしそうな顔をしてくれたのが印象的でした。子どもの発想はおもしろい！

参加者数はのべ 28 名。内訳は次のとおりです

午前 … コインケース：中学生 5 名、ペン立て：中学生 3 名 & 大会関係者とかんた君

午後 … コインケース：10 名、ペン立て：6 名 + 2 名

また今後もやっていきたいですね。おもしろい企画でした。

【文責：中塚義実】

V. ノンボーダーフットボール報告

1. 実施概要

【開催日時】 2015 年 7 月 26 日（土）17:00~19:00

【開催場所】 ROX・3G スーパーマルチコート（浅草）

【参加者数】 34 名

【協賛団体】 ネパール野球ラリグラスの会

2. 事業報告

2015 年度の新規事業として、本事業 Non-Border Football Project を実施した。本事業の目的は、サッカーを通じて性別、世代、国籍などを超えて「楽しい時間」を共有することであり、10 代から 50 代の男女、34 名が集まった。またドイツやガーナからの参加者もおおり、非常にバラエティーに富んだ方々を迎える事が出来た。

当日の流れは、参加者全員を 5 チームに振り分け、順次試合を行うと共に、ピッチの外では、本企画のフラッグの色塗りを参加者全員+そのお子様で協力して行った。また、ネパール野球ラリグラスの会と協力し、参加者へネパール大震災への募金の協力をお願いした。

試合は、「得点時にチーム全員で喜ばないと得点を無効にする」という特別ルールのもと実施した。始めは初対面であることから参加者同士に固さも見られた。しかし試合が始まれば、非常に楽しそうにボールを蹴る様子が見られ、歓声を笑い声の絶えない 2 時間となった。グラウンドには、みな一様に「サッカー選手」として純粋にボールを追う姿があり、企画者として胸がいっぱいになった。

※当日の詳しい様子については、サロン 2002 のフェイスブックページにて公開しております。また、当日の様子を収めた動画を Youtube にて公開（Non-Border Football Project 26.07.2015 で検索）しておりますので、こちら是非ご覧ください。



（終了後、参加者全員での記念撮影）

【文責：春日大樹】

VI. Sport for Tomorrow 事業への参加

NPO法人サロン2002は、2016年1月26日付で「スポーツ・フォー・トゥモロー」コンソーシアムに加盟しました。「スポーツ・フォー・トゥモロー（以下、SFT）」とは、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致活動の中で、日本国政府がレガシープロジェクトとして掲げたスポーツを通じた国際貢献事業です。2020年までに発展途上国を中心とした100カ国以上、1000万人以上の人々にスポーツの価値を届けることを目標としております。現在この事業をオールジャパンで推進していくために、スポーツ庁・外務省・JSCなどを中心に「スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム」というプラットフォームを形成し、競技団体・NGO・民間企業・大学・自治体など約180団体が加盟しています。サロン2002会員である岸卓巨がこのコンソーシアムの事務局を務めていることもあり、今回入会に至りました。2016年3月9日に開催された「スポーツ・フォー・トゥモロー」の全体会議には中塚理事長、安藤理事、嶋崎理事が参加しました。サロン2002では、これまでもNon-Boarder Footballの開催やケニアにおけるスポーツイベントの支援などを行ってききましたが、今後より一層国際交流・国際貢献の活動も実施できればと思います。



参考：SFTホームページ <http://www.sport4tomorrow.jp/jp/>

SFT Facebookページ <https://www.facebook.com/sport4tomorrow/>

<NPO法人サロン2002会員・メンバーの皆様へ>

- ① 開発途上国へのスポーツ支援活動やスポーツを通じた交流事業を実施される機会がございましたらご連絡ください。サロン2002が関わることで、SFT認定事業としての申請やSFTのネットワークで協力者を得られる可能性があります。
- ② SFTコンソーシアム事務局ではSFT関連の事業やイベントに関する情報配信を行っております。配信先としてのメールアドレス登録を希望される方がいらっしゃいましたらご連絡ください。

本件に関する問い合わせ・連絡先：岸卓巨 takumi.kishi@jpnnsport.go.jp

VII. 事務局報告

1. 2015年度NPO法人サロン2002会員・スポネットサロンメンバー数

NPO法人サロン2002会員数	28名
スポネットサロン2002メンバー数	68名

2. 2015年度役員・事務局

理事長	中塚 義実
副理事長	笹原 勉
理事	安藤 裕一
	嶋崎 雅規
	本多 克己

	松下 徹 (新)
監事	茅野 英一
事務局長	岸 卓巨
事務局長補佐	春日 大樹 (新)

3. 事業内容

	事業内容
4月	4月月例会「NPO 法人化初年度のサロン 2002 共催事業を振り返る」
5月	5月月例会「旧ユーゴスラビアが日本に残すサッカーの遺産」 スキンプロジェクト
6月	6月月例会「ミャンマーとサッカー」 2015 年度サロン 2002 総会
7月	2015 年度サロン 2002 公開シンポジウム「スポーツでゆたかな暮らしを！」 Non-Border Football Project
8月	8月月例会「競技力とデータ測定の関係について」
9月	9月月例会「スロバキアへ行ってきました」
10月	10月月例会「大学の授業を通じた体育・スポーツ分野における国際協力」
11月	11月月例会「2019 年ラグビーワールドカップ成功のために①」
12月	12月月例会「2019 年ラグビーワールドカップ成功のために②」
1月	1月月例会「柔道というスポーツが日本で愛されるために」 Sport for Tomorrow コンソーシアム加盟
2月	2月月例会「この国のサッカーを語る」
3月	3月月例会「FIFA スキャンダルと FIFA の行方」 ユースフットサル選抜トーナメント 2016 スキンプロジェクト

4. DUO リーグとの業務委託について

2016年1月末に、サロン 2002 理事長中塚、事務局長岸と DUO リーグチェアマン岩野英明氏の間で会合が持たれ、2016年2月1日付で、DUO リーグとサロン 2002 との業務委託が成立した。これによって、サロン 2002 は DUO リーグの事務局業務及び企画部の業務を担う事となった。

【文責：春日大樹】

VIII. この一年を振り返って

サロン 2002 にとって、2015 年度は、NPO 法人として初めて通年の活動を行った年である。本年度の活動の特徴は、活動内容の多様化といえよう。

2015 年 2 月の月例会において、ワークショップ形式で活動内容のアイデアを出し合ったが、アイデアを出した参加者自らが、月例会で講演を行い、またノン・ボーダー・フットボールのようなイベントを主催したことは、今後の活動の幅を広げる意味で大きな一歩であった。

今年度のシンポジウムでは、「スポーツでゆたかな暮らしを！」とのテーマで、スポーツの持つ力についての議論を行ったが、月例会でもその内容を具現化するようなテーマが多かった。特に国際交流についての話題は 4 回を数えた。ボスニア・ヘルツェゴビナ、ミャンマー、スロバキア、カンボジアでの国際交流、国際貢献に関する報告は大変興味深いものであった。

競技種目での多様化も見逃せない。2015 年度の日本スポーツ界の最大の話題の一つはラグビー・ワールドカップでの日本代表の活躍であった。月例会でも、3 年後の世界カップ日本開催に向けて盛り上がるラグビーの話題を 2 回取り上げた。また初めて柔道をテーマとする月例会も開かれた。事前に行われた有志によるグラウンドスラム大会観戦と相まって、接する機会の少なかった種目に目を開ききっかけとなった。

サロン 2002 は、NPO 法人として社会貢献を求められている。活動方針では、「人的ネットワークの拡充と、それを基盤とした月例会、シンポジウムの開催を進め、その成果を広く社会にフィードバックしていく」と謳っている。この方針、特に「社会へのフィードバック」をより高い次元で達成するために、会員数の増加、シンポジウムや月例会などイベントへの参加者増加、ホームページや報告書の閲覧者の増加を、今後の主要な課題として挙げたい。今年度も、FIFA 会長賞を受賞した賀川浩氏や、ジャーナリストの田村修一氏などの講演では、非会員を含めて多くの参加者を集めている。前年度から開始した共催事業「ユースフットサル選抜トーナメント」や「クーベルタン - 嘉納ユースフォーラム」、或いはスキンプロジェクトの参加者は、シンポジウムや月例会とは異なる層の参加者である。これら新しくサロン 2002 の活動に触れた方々に、「スポーツを通じた豊かなくらしづくり」というサロンの「志」への共感を持っていただき、ネットワークをより大きくするべく努めたい。

特定非営利活動法人サロン 2002

副理事長 笹原 勉